

医療相談室年間報告

(昭和55年1月～昭和55年12月)

足利量子

はじめに

早期援助を開始すべく、システムの確立を検討する必要がある。

医療相談室の昨年1年間における業務状況の報告をまとめ、新病院移転での変化を検討し、今後の検討資料としたいと思う。

ボランティアの導入と家族会の成立

相談室の業務は、患者に対する相談援助にとどまらず、院内の諸々の医療遂行上の諸要件への対応も求められてくる。すでに、院内広報でお知らせした、小児病棟からの提案のあった、入院中の学齢期児童に対するボランティア、「スモール・エンゼル」の導入も、その例である。ボランティアの導入を単に、小児病棟の活動としてではなく、院内のコンセンサスを入れて実施したのは、画期的な事で恐らくあまり全国的にも例をみないのでなかろうか。これは、相談室の事業というより院内の姿勢として評価したい。

患者に対する相談援助

図1にみられる如く、相談援助は各科にわたっている。

昨年の傾向として、新病院移転後、患者増による、相談件数の増加がめだっている点と「市政だより」等の広報もあって、患者家族の直接相談室を訪ねる傾向が強まった。また院内からの紹介は主治医、ナースとなっているが、相変らず問題が発生し、困難な状態になってからの連絡が多く、当院が多忙なための構造的問題ともみられるが、相談室の機能をよく院内職員に理解してもらい、

また、植物状態の患者を抱える家族から家族のまとまりの要として、家族会の設立の要望があっ

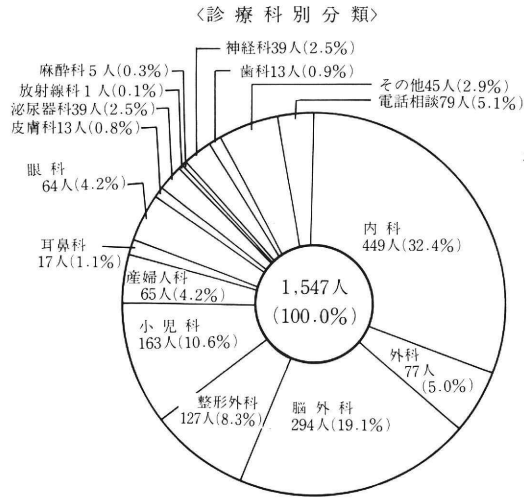
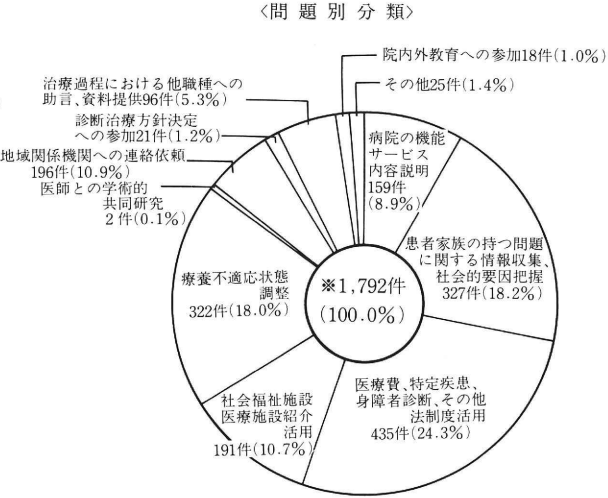


図 1



※相談内容は件数が重複している。

図 2

た。これも院内関係者の承認のもと「ゆずりはの会」として発足し、月1回、定例会を開催している。

個々の個別的要望はあっても、家族の集りで、評価、検討され、植物状態患者への対応がまとめられていく、この点に関しても、院内関係者が、よく協力してくれ、その事実を家族は、集りを持つことにより、理解し、スタッフとの信頼関係の樹立につながっていく。

教 育 活 動

- (1) 東北福祉大学生に対する教育
講座名 医療社会事業
- (2) 仙台市立高等看護学院生に対する教育
講座名 社会福祉
- (3) 仙台市医師会高等看護学院生に対する教育
講座名 社会福祉
- (4) 東北大学医療技術短期大学部看護学科生に対する教育
講座名 総合看護の中での医療社会事業
- (5) 東北大学医学部新入生に対して
○救急医療の実態（患者家族の社会的背景について）
○植物状態患者の社会的背景
- (6) 実習生の指導

実習名

- 医療相談室実習
- 仙台市立高等看護学院生

論文発表、その他

- (1) 第11回日本看護学会、成人看護分科会にシンポジスト、昭和55年9月、秋田
- (2) 第28回日本社会福祉学会にシンポジスト、昭和55年11月、大阪
- (3) 東北大学医学部、病院管理学教室研究会、「病院と老人医療」シンポジスト、昭和55年12月仙台

お わ り に

一年間の報告書を作成し、考察するに、新病院移転という病院の大事業があり、且、当室のスタッフにも異動その他があり、相変らず、業務に追われている点がめだち、今後の反省の資料としたい。

その他、昨年の傾向として、東北大学医学部の学生が、この業務に関心を持ち、訪室の多かった点も特徴としてあげられる。

現代病院の在り方が検討されている昨今、それへの対応として、当室の業務の質の向上を、諸先生の御指導を仰ぎ、検討してゆきたい。

（昭和56年7月20日 受理）

第1回CPC 昭和54年11月27日（火）

- ① Primary biliary cirrhosis
- ② Osteomyelitis Aplastic Anemia

内科 篠田 晋
内科 李 茂基